

踏み跡 <My Mountains>

道志	北海道偵察山行(田野入から駒倉峠東部)	No.142
----	---------------------	--------

昭和45年1月15日

北海道東端探索の山旅を計画したが、1月4日・1月11日と二度続けて寝坊してしまった。三度目の正直は1月15日 成人の日。薄雲りで寒々しい空だが勇気をもって出かけることにした。

目的は、前回の終了時に疑問として残った「三方分岐から田の入のトンネルに至る尾根に道があるか？」を確かめることに特定。このため高尾登 12時45分というのんびりした出発。

上野原から秋山の谷に向かうバスに乗って15分、トンネルを出たところで下車。

民家の脇から沢沿いの道に入り、田の中を進むこと10分ほどで道祖神、炭焼き小屋と目印になる物が続く。探検行であり偵察山行でもあるので、主な分岐点や目印はノートにメモしておく必要がある。

数本の小道を分けてさらに進むと、大きな三本の杉の木に招かれるように杉の伐採地に入った。伐採地に入るとともに「道」という名の歩きやすさも決別することになってしまった。

伐採地の中を、どちらかと言うと南側の尾根に近付きながら進むことにする。

20分ほどで飛び出た稜線にはもちろん道などない。ここから西北西に向かって尾根をたどれば、前回「三方分岐」と名付けた小ピークに立つことができるはず。地図上で見る限り標高差は50~60mだが、実際に目で見た感じではさほどにも見えない。大きな曲がった赤松によじ登って眺めてみると、うっすらと踏み跡らしきものが見える。また、目指す田の入のトンネルに向かう主稜は点々と黒木が茂り、その間を塗ったように枯れ木の褐色が。

曲がり松から数分で三方分岐に到着。このピークの目印は二本のアカマツと大きなモミの木。曇天で肌寒く、あまり長居する気がしない。

東北東に下る尾根が、か細くはあるが道志の主稜の末端へ落ちて行く尾根のようだ。この尾根の藪は顔面に痛くうるさいぐらいに茂っている。地図上でわずか数cmのしかも下りでも二時間も要してしまう。

トンネル上の小ピークに16時30分到着。林檎をかじりながら周囲の状態を観察。林立するTVアンテナと足元に這うフィーダー線は谷間の人家の茶の間に繋がっているのだろうか。フィーダー線と張り綱を踏まぬように気をつけながら秋山川側に下ると、農家の裏に出てトンネル入口の今朝のスタート地点にたどり着いた。

道志もここまで来ると登山者の足を寄せ付けないようで、とても景色を楽しむような余裕ある旅とは言えない。空が寒いのも手伝って派手な思い出は残らないが、今目標としている探索行の上での疑問が、歩くたびに解明されて行くのは楽しいことだ。

以上

